

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成18年6月1日(2006.6.1)

【公表番号】特表2006-500096(P2006-500096A)
 【公表日】平成18年1月5日(2006.1.5)
 【年通号数】公開・登録公報2006-001
 【出願番号】特願2004-537345(P2004-537345)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

【手続補正書】

【提出日】平成18年4月5日(2006.4.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

隣接する椎骨間に挿入するための椎間プロテゼであって、該プロテゼは、以下：
 上側プロテゼ板および下側プロテゼ板であって、それぞれの椎骨に対して設置可能であり、かつ該プロテゼ板において、対向した凹型に弯曲したくぼみを有する、上側プロテゼ板および下側プロテゼ板；ならびに

該板の間に位置したコアであって、該コアは、該板の該くぼみに受容されて、該板が該コア上を関節結合した様式でスライドすることを可能にする、対向した凹型に弯曲した表面を有する、コア
を備え、

該コアの該対向した表面および該板の該くぼみは、協働する球状曲率を有し、各板は、該環状リムによって結合され、その結果該環状リムが、該板が該コア上をスライドする動きの所定の制限において、互いに接触するように配置されている、
 椎間プロテゼ。

【請求項2】

前記板は、前記リムに隣接した環状溝を有し、使用状態に前記プロテゼを配置するために使用される器具によってその取り扱いが容易にされる、請求項1に記載のプロテゼ。

【請求項3】

前記板の少なくとも一つは、位置づけペグを備え、該ペグは、前記コアの前記対向した凹型に湾曲した表面において中心に位置する開口部において緩く位置する、請求項2に記載のプロテゼ。

【請求項4】

前記ペグは、前記板の内の一つが前記コアの上をスライドする動きの所定の制限において、前記開口部の側面に隣接するように配置される、請求項3に記載のプロテゼ。

【請求項5】

前記板は、前記椎骨におけるスロットに位置づけ可能な、直立した細長いフィンを有する、請求項1～4のいずれか1項に記載のプロテゼ。